

≫≫ お知らせ

**当館を紹介する講座が開催されます
奮ってご参加下さい！**

専門図書館への入口講座 第8回 日比谷カレッジ版

「映画・演劇資料の宝箱」—松竹大谷図書館—

- 会場:千代田区立日比谷図書文化館4F セミナールーム A
- 日時:3月16日(木) 18:30~19:30(18:15 開場)
- 参加料:無料
- 定員:24名

3月16日(木)に、日比谷公園内にある千代田区立日比谷図書文化館において、「映画・演劇資料の宝箱」と題し、当館を紹介する講座が開催されます。これは、日比谷図書文化館が、利用者の情報アクセス支援の一部として、近隣の専門図書館を紹介する目的で開催している「専門図書館への入口講座」の第8回目として行われるものです。これまでの第1回から7回では「BICライブラリ」「ジェトロビジネスライブラリー」「防災専門図書館」「総務省統計図書館」「東京国立近代美術館アートライブラリ」「大宅壮一文庫」「旅の図書館」など、ビジネス支援から芸術に至るまで様々な専門図書館の講座が行われており、第8回である今回、当館に声をかけていただきました。

当企画へのご参加は、日比谷図書文化館へお申込み下さい。受付開始は2月24日(金)10:00です。

日比谷図書文化館連絡先 ※申込先着順で定員24名になりしだい締め切らせて頂きます。

- 電話(03-3502-3340)
- Eメール(college@hibiyal.jp)
- 日比谷図書文化館1階受付

お申込みの際は、①講座名／②お名前(よみがな)／③電話番号 をお伝え下さい。

当日は、当館の概要から始まり、所蔵資料のご紹介や利用方法、そしてクラウドファンディングなどについて、ご紹介する予定です。当館の開館時間には、お仕事でなかなかご利用頂けない方にも、この講座は平日夕方方の開催という事で、ご参加頂けるのではないかと期待しております。皆様のお申込を心よりお待ちしております。

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『シネマ歌舞伎 阿古屋』	○		○		
『マギーズ・プラン 幸せのあとしまつ』	○		○		
『破門 ふたりのヤクビョーガミ』	○	○	○		○

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

『東京ウィンドオーケストラ』 『ザ・コンサルタント』 『マグニフィセント・セブン』
 『マッドマックス 怒りのデス・ロード ブラック&クロームエディション』
 『オマールの壁』 『更年奇的な彼女』

■ 松竹系 1月演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『将軍江戸を去る』	○			
	『大津絵道成寺 愛之助五変化』	○			
	『伊賀越道中双六 沼津』	○			
	『井伊大老』	○		○	○
	『越後獅子』				
	『傾城』				
新橋演舞場	『秀山十種の内 松浦の太鼓』	○			
	『通し狂言 雙生隅田川』	○			
	『源平布引滝 義賢最期』	○			
	『三代目市川右團次襲名披露口上』			○	○
	『鍛引』	○			
	『猿翁十種の内 黒塚』	○			
浅草公会堂	舟木一夫シアターコンサートin新橋演舞場			○	
	『傾城反魂香』	○			
	『義経千本桜 吉野山』				
	『双蝶々曲輪日記 角力場』	○		○	○
	『御存鈴ヶ森』	○			
三越劇場(日本橋)	『棒しばり』	○			
	『華岡青洲の妻』			○	○
	『朗読劇 春色浅草ぐらし』			○	
松竹座(大阪)	『朗読劇 風流深川唄』				
	『吉例寿曾我 鳴立澤対面の場』	○			
	『梶原平三誉石切』	○			
	『恋飛脚大和往来 新口村』	○			
	『鶴亀』				
	『八代目中村芝翫四代目中村橋之助三代 目中村福之助四代目中村歌之助襲名披 露口上』			○	○
	『歌舞伎十八番の内 勸進帳』	○			
『雁のたより』	○				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

赤坂RED/THEATER	1月	トローチ『エキスポ』プログラム
神奈川芸術劇場	1 2月	劇場プロデュース『ルーツ』プログラム
カメラアホール	1 2月	劇団NLT『OH!マイママ』プログラム
紀伊國屋ホール	1月	ラップ屋『ユー・アー・ミー?』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	1 2月	劇団仲間『森は生きている』プログラム
国立劇場大劇場	1月	『通し狂言 しらぬい譚』プログラム
国立劇場小劇場	1 2月	『文楽公演』プログラム、床本
座・高円寺1	1月	『赫い月』プログラム
ザ・スズナリ	1 2月	風琴工房『4センチメートル』プログラム
サンモールスタジオ	1月	サンモールスタジオプロデュース『西戸山ワルツ』プログラム
シアタークリエ	1 2月	『ナイスガイ in ニューヨーク』プログラム
下北沢駅前劇場	1月	イエティ『コテンパン・ラリー2』プログラム
自由劇場(四季)	1 2月	ファミリーミュージカル『嵐の中の子どもたち』プログラム
SPACE梟門	1月	鶴的トライアル『フォトジェニック』プログラム
スペース・ゼロ	1月	舞台『おとめ妖怪ざくろ』プログラム
中日劇場	1月	『前川清・瀬川瑛子新春特別公演』プログラム
帝国劇場	1月	『JOHNNYS' ALL STARS ISLAND』プログラム
博多座	1月	『ミュージカル天使にラブ・ソングを』プログラム
博品館劇場	1 2月	OSK日本歌劇団『ROMEO&JULIET』プログラム 『Silver Star, Silver Moon, Silver Snow』プログラム ミュージカル『SNOW MANGO』プログラム
本多劇場	1 2月	柿喰う客『虚仮威』プログラム
三越劇場	1 2月	『シンデレラ』プログラム
明治座	1月	『由紀さおり特別公演』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『Confetti』2017年FEBRUARY Vol.146	『花道』37号
『Confettiかわら本』2017年1月号,2月号	『喝采』2017年4月,4月特別号,5月
『SePT倶楽部 information』 2016年12月号,2017年1月号	『季刊誌FOR YOU』56号
『あぜくら』2017年1月号	『義太夫』104号
『えんぶ』2017年2月号	『国立演芸場公演ガイド』平成29年2月号
『げき』2017年1月17号	『座・高円寺』No.16
『こまつ座通信』号外	『長唄』120号
『ほうおう』2016年1月号-2017年3月号	『伝統文化新聞』2017年(128号),新年号
『シアターガイド』2017年3月号	『日本芸術文化振興会ニュース』平成29年2月号
『ステージぴあ』2017年1+2月号	『日本劇場技術者連盟誌』No.4
『テアトロ』2017年1月号,2月号	『日本照明家協会誌』2017年1月号
『ミュージカル』2017年1月-2月号	『日本舞踊』69巻2月号
『ラ・アルプ』2017年2月号	『文化座』176号
『演劇界』2017年3月号	『文楽通信』2017年19号
	『邦楽の友』平成29年2月号

■ 映画雑誌 ■

『SCREEN』2017年3月号,付録	『映画芸術』2017年冬号
『キネマ旬報』2017年2月上旬号,2月下旬号キネ マ旬報ベスト・テン発表特別号	『映画時報』2017年1月号
『シナリオ』2017年2月号,3月号	『映画秘宝』2017年3月号
『シナリオ教室』2017年2月号	『衛星劇場プログラムガイド』2017年2月号
『ドラマ』2017年2月号	『松竹(社報)』2017年(197号)
『ロケーションジャパン』2017年2月号	『日経エンタテインメント!』2017年1月号
	『友 I w a n a m i H a l l』2017年冬号No.387

■ 書 籍 ■

- 『江戸のしかけ絵本 立版古とおもちや絵』 本庄美千代（編）、佐久間保明（監修）グラフィック社
 『実技日本舞踊の基礎』 花柳千代（著） 東京書籍
 『FUNDAMENTALS OF JAPANESE DANCE : KABUKI DANCE』
 by Hanayagi Chiyo [花柳千代], translated by Leonard Pronko, Tomono Takao [友野孝男]
 Kodansya shuppan service center [講談社出版サービスセンター]
 『長唄囃語』 稀音家義丸 - 2世（著） 邦楽の友社
 『独立行政法人日本芸術文化振興会（国立劇場）50年の歩み』 国立劇場営業部営業課編集企画室50周年史編集グループ（編）日本芸術文化振興会
 『言葉の劇場 OMS戯曲賞20年記念誌』 「言葉の劇場 OMS戯曲賞20年記念誌」編集委員会（編）大阪ガス
 『ボックスオフィス報告書 2013年ロンドン劇場協会』 日本演劇興行協会
 『国立能楽堂コレクション展 能の雅 狂言の妙』 NHKプロモーション
 『七世竹本住大夫 私が歩んだ90年』 竹本住大夫 - 7世（著）、高遠弘美+福田逸（聞き手） 講談社
 『市川染五郎と歌舞伎を観よう』 小野幸恵（著）、市川染五郎 - 7世（監修）岩崎書店
 『84 八代目中村芝翫』 光文社
 『歌舞伎衣裳図録』 松竹株式会社事業部（編） 松竹・事業部
 『隈取 大鳥順一郎 押隈コレクション』 西村寛子（編著） New York Art
 『活狂たちの半世紀』 松田豊（編） 無声映画鑑賞会
 『東映時代劇集』 最上敏信（編） 私家版（最上敏信）
 『昭和女優伝説』 最上敏信（編） 私家版（最上敏信）
 『芸術家なんかになってやるものか 映画監督 春原政久フィルムグラフィー』 山口博哉（編） 私家版（山口博哉）
 『原節子の真実』 石井妙子（著） 新潮社

≫≫ 資料提供（2016年12月～2017年1月）

※許可を得た方のみ掲載しております

出版

- 朝日ジュニアシリーズ『週刊マンガ日本史改訂版 92号「南方熊楠」』2016年12月6日 朝日新聞出版
スチール写真「松竹蒲田撮影所（大正14年頃）」を提供
- 『花道 37号』 2016年12月29日 浅草歌舞伎を育てる会
スチール写真『棒しばり』（昭和10年9月歌舞伎座）を記事に提供
- あの頃映画松竹ブルーレイコレクション『男の顔は履歴書』『地獄部隊突撃せよ』 2017年1月6日
松竹メディア事業部
映画ポスター『男の顔は履歴書』『地獄部隊突撃せよ』をブルーレイのパッケージに図版として提供
- 『松竹（社報）197号』 松竹株式会社
『松竹社報』第130号（昭和36年2月）を記事に提供

放送

- 『開運！なんでも鑑定団年末スペシャル』 2016年12月27日 20:54～23:08 テレビ東京
『婦系図』初演の辻番付（明治41年9月新富座）を提供
- 『たけしの誰も知らない伝説 ニッポンの天才たち2016』2016年12月30日 20:54～23:34 テレビ東京
演劇プログラム『勸進帳』（「初春浅草歌舞伎」平成11年1月浅草公会堂）を提供

「神戸映像アーカイブプロジェクト ノンフィルム資料の保存と活用」に参加して

2016年12月11 - 12日 於 神戸映画資料館
参加者：井川繭子

松竹大谷図書館が所蔵している映画資料は、基本的にフィルム以外の映画関連資料である。映画関連の図書、雑誌をはじめ、映画台本、ポスター、プログラム、プレスシート、スチール写真、スクラップブック等のこれらノンフィルムと称される資料は、全国各地の資料館、団体、個人に広く所蔵されているが、今までその資料に特化した講座やイベントはほとんど開催例がなかった。今回は2日間にわたって講座と勉強会が行われると知って、これは良い機会ということで大きな期待を抱いて参加してきた。

【12月11日（日）公開講座：映画関連資料の現在】



【アスタくにつか1番館北棟2階。中央部分が神戸映画資料館】



【神戸映画資料館の外観。懐かしの映画スターが目印】

神戸市長田区にある神戸映画資料館は、新神戸駅より神戸市営地下鉄で15分程の新長田駅から徒歩5分、アスタくにつか1番館北棟2階にある。アスタくにつかは、神戸市震災復興再開発事業として建設された住商一体型の複合施設で、スーパーや商店街に囲まれた一角に映画資料館が入っている。入口のドアを開けるとカウンター席もある喫茶店スペースとなっており、壁には映画ポスター、周囲の窓下には『キネマ旬報』『スクリーン』等の映画雑誌が並んだ書棚が設置され、昔の映写機が展示されているコーナーもあるなど、映画好きには嬉しいシネマカフェになっている。映画を見に来た方はもちろん、喫茶店としても気軽に立ち寄れる親しみやすい雰囲気が漂っている。奥には会員制の資料室と、上映会などが行われるシアターがある。シアターは定員38名だが座ってみるとシート前後のスペースは足が充分伸ばせるくらい広く、大変居心地が良い。今回の講座は主にこのシアターを会場にして行われた。

講座はまず、「《ノンフィルム》もう一つの映画のアーカイブ」と題して、東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員でノンフィルムを統括する岡田秀則氏による基調講演から始まった。

ノンフィルムとはもともとは業界用語で、映画のフィルム以外の映画資料を指す用語である。フィルムに比べるとマイナーな分野と思われてきたが、現存しない膨大な数の映画を知る手掛かりとなるだけでなく、我々がどうやって映画を享受してきたかを示すいわば生活文化の一部であり、20世紀のメディア状況を語る歴史資料でもあり、時代時代のクリエイターが関わったそれ自体が芸術作品であるなど様々な価値を持つもので、近年その重要性が再認識されている。しかし資料散逸の危機や映画業界の再編、コレクターの世代交代、著作権の取り扱いなど数々の問題に直面している。

そこでこれからは映画資料を所蔵する各地の資料館やコレクターと連携してネットワーク化を図り、資料の目録化やデータベース制作、人材の育成などについての情報交換を行って、広報や研究活動を通して社会的認知度を上げていく必要がある。また今後ノンフィルム資料に期待される展開としては、展覧会を開くなど積極的な企画プロデュースの必要性や、芸術作品として映画資料以上の価値を見出す、デジタル化して気軽に見られるようなものを構築する、資料の散逸を防ぐための収集キャンペーンを行う、新たな映画研究の対象となる、収集した資料のデータ管理を担当する専門家を導入する等を挙げられた。

こうした将来像をきちんと意識した活動が、映画資料を扱う資料館には求められることになるのだろう。映画資料館はそこに存在しているだけで、資料が集まってくる（＝散逸を防げる）という意味でも十分に価値があるのだ、とのお話には、資料を扱う者としての責任を感じて一層身の引き締まる思いがした。

続いて実践報告として、京都文化博物館の大矢敦子氏、東映太秦映画村映画文化館の木村立哉氏、神戸映画保存ネットワーク客員研究員の田中晋平氏、メディア・アーティストの森下明彦氏より、それぞれの資料館が所蔵するノンフィルム資料の内容と保存方法、資料を活用した展覧会やイベントなどの実践例について報告が

あった。京都文化博物館にある京都府フィルムライブラリーや、太秦映画村内にある映画資料館（図書館）の内容については、さすが映画の撮影所の多い京都ならではのコレクションと感嘆した。また神戸映画資料館の特徴あるコレクションの紹介の中では、自主上映のパンフレット等の保存にも力を入れていることが報告されたが、その土地ならではの映画文化享受の歴史を語る貴重な資料であろう。そして収集した映画資料を展示イベントを開催する活動をされている森下氏のお話は、ノンフィルム資料の価値を魅力的に発信する一例として興味深く聞くことができた。

最後に神戸大学准教授で今回の催しの主催である神戸ドキュメンタリー映画祭実行委員会委員の板倉史明氏を司会として、発表者によるディスカッションと会場の参加者による質疑応答が行われた。各地から参加されたコレクターの方々の資料収集力と知識の深さに改めて感じ入ると共に、個人で収集した資料の取り扱いに苦慮しているお話なども聞くことができて、とても参考になった。今回会場に集まった参加者の共通認識としては、ノンフィルム資料の価値と重要性はよく理解しているし、保存の必要性も強く感じている。しかし今後大切なのは、一般の方に対してもっとノンフィルム資料の価値を広く発信して理解してもらうこと、そのためには予算や人材に制限がある中でも、直ちにできることから取り組みを始めることが重要だと確認することができたと思う。会場は補助席も出るほど盛況で、参加者からの活発な質問もあり、非常に密度の濃い講座となった。

〔12月12日（月）勉強会：映画関連資料の取り扱い〕

2日目はまず、神戸映画資料館の資料収蔵庫の見学から始まった。収蔵資料は神戸映画資料館館長である安井喜雄氏が1970年代から「プラネット映画資料図書館（大阪）」として長年収集してきた資料が基になっているが、現在は同じ建物内の別の場所を収蔵庫として借りているそうである。映画フィルムが保管されている部屋には、スチール書架の中にフィルム缶がぎっしり並んでいて圧倒された。別に借りているフィルム調査室では、現在もイマジカウエストのOBの方によりフィルムの調査と整理が続けられている。また、撮影機材や映写機などの資料がこれまたぎっしり詰まった部屋もあった。ご説明いただいた神戸映画資料館支配人の田中範子氏によれば、これらの収蔵スペースは神戸市より借りているため、将来どうなるか見通しが難しいのが悩みの種とのことであった。

神戸映画資料館のHPを拝見すると、地元のボランティアを募集してチラシやパンフレットなどの映画資料の整理を手伝ってもらう活動をされているようなので、こうした取り組みを積極的に続けることが、映画資料館に対する地元の方々や自治体の理解を得ることもつながっているのだろうと思った。

続いて昨日と同じく、神戸映画資料館のシアターにて、岡田秀則氏による「東京国立近代美術館フィルムセンターのノンフィルム資料」と題して、フィルムセンターが行っている資料の保存方法や方針、資料の紹介があった。日本に於ける唯一の国立の映画専門資料館であるフィルムセンターの事例は、同種の資料を所蔵する当館にとっても関心の高いことばかりである。ポスターの収蔵方法からスチール写真の保存封筒への入れ方まで、細かい部分が一つ一つ参考になりとても有り難かった。

お昼休憩を挟み、午後は同じ建物の別の部屋に移動して、フィルムセンターで行っている修復や保存作業を実際に体験してみるワークショップが開かれた。初めに参加者全員の自己紹介があったが、映画資料を扱う資料館等の関係者や研究者、コレクターの方々が全国から参加されていて、今回の勉強会にける期待の大きさがうかがえた。

講師は以前フィルムセンターに勤務され、現在は神戸映画資料館で活動されておられる和田泰典氏である。フィルムセンター時代に、自ら国会図書館などの研修会に参加して保存修復方法を研究されたというその熱意に感動しつつ、まずひと通り手順をご説明いただいた。今回は状態が良くない資料を保護する中性紙箱の作り方と、破損したポスターの簡易修復方法である。



【「東京国立近代美術館フィルムセンターのノンフィルム資料」講義風景】



【ワークショップ:中性紙箱の作り方を講師の方が実演】

印象的だったのは中性紙箱で、これは資料の保存に適した中性紙を使って切り込みを入れて折り畳んでいくだけで保存箱になるものである。資料を保護できるだけでなく、閲覧に供するときにもこの箱に入っていることで、利用者にも、大事に扱わなければならないという意識を持って丁寧に取り扱いしてもらえる効果もあるとのことで、図書館として日々閲覧業務を行っている当館にとっては、とても参考になった。

もう一方のポスターの簡易修復は、当館が補修作業で行っている和紙を使って修復する方法と同じだったが、ところどころ違う点もあって、比較する意味でも勉強になった。

続いて実際に用意された資料を使って、実習となった。交替で教え合いつつの作業はなかなか楽しくあつという間に時間が経ってしまい、残念ながら私は中性紙箱の方は作成できなかったのだが、詳細な作り方の資料もいただいたので、持ち帰って早速実践してみたいと思っている。



【完成した中性紙箱。紐を取り付けて綴じすることもできる】



【ワークショップ:ポスター修復(右)と中性紙箱の作成(左)に取り組む参加者一同】

以上で今回の講演と勉強会はすべて終了となった。参加して感じたのは、参加者の方々のノンフィルム資料を何とかしなければという意識の高さと熱意である。今まではお互いに直接関わる機会があまりなく、それぞれが独自に試行錯誤しながら何とか資料を収集・保存・修復してきたのが現状だったが、今回を機にネットワークが出来て、情報交換やアドバイスなどが活発に行えるようになれば、随分と現場の意識も変わってくると思う。今回の主催者である神戸映画資料館の方によると、今後も年に一回程度こうした機会を設けたいとのことなので、引き続き当館も関わっていけたらと考えている。

最後になったが2日間にわたって開催して下さった神戸映画資料館の方には大変お世話になった。この場をお借りして御礼申し上げたい。



神戸映画資料館

HP : <http://kobe-eiga.net/>

住所 : 〒653-0036 兵庫県神戸市長田区腕塚町5丁目5番1
アスタくにつか1番館北棟2階

TEL : 078-754-8039

開館時間 : 10 : 30 ~ 18 : 00 (水曜および木曜は休館)

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2017（平成29）年1月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

● 洋泉社『図書館徹底活用術』に当館が掲載されております ●

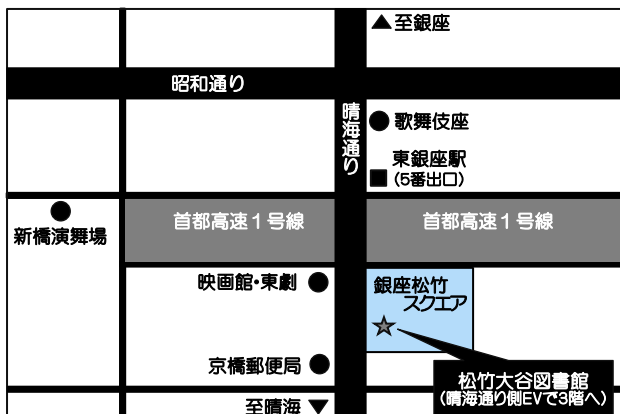
1月27日に洋泉社より発売された『図書館徹底活用術』の「深い知識はここで見つける！ 専門図書館」の章で、当館が他の専門図書館と一緒に紹介されました。Web上での



蔵書検索のコツや、館内に置かれたパスファインダー（図書館での調べ方の手引き）の活用方法など、図書館を使いこなすための具体的なテクニックが紹介されています。図書館を利用する人にとって大変頼もしい一冊ですが、活用される側の図書館員にとっても他館の事例や、利用者にとって今何が便利なのかを知る事が出来、実用的で非常に便利な資料です。

書店や図書館で見かけましたら、ぜひお手にとってご覧下さい。

■ 春期特別整理休館のお知らせ ■
 平成29年3月2日（木）より
 3月15日（水）まで
 資料整理のため休館いたします。
 3月16日（木）より通常どおり開館いたします。



● 交通案内 ●
 東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
 東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

● 利用案内 ●
 開館時間
 平日午前10時～午後5時
 休館日
 土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間
 ※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。
 入館料 無料
 閲覧 館内閲覧のみ

編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア3階 / TEL 03-5550-1694

公式 HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

公式 Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>